

## 1 事業の概要

本校は明治26年に秋田県で2番目の公立高校として開校し、平成29年度に創立125周年を迎えた伝統校である。卒業生は3万人弱を数え、これまでも地域農業や地域産業を支える人材を輩出してきた。本校が位置する秋田県大曲市では、農業が地域を代表する産業となっているものの、高齢化、後継者不足及び耕作放棄地等が問題となっている。さらにグローバル化への対応の遅れや輸入農産物の増加に伴う国内価格の低迷などにより、将来に展望を見い出せない状況にある。

このことから、農業の付加価値を生み出すサービスを提供し、ブランディングに取り組みめる能力、地域の産業と結び付け6次産業を生み出す能力及び豊かな農山村資源をグリーンツーリズムなどと結び付け、その活性化のために活躍できる能力を身に付けた人材の育成をSPH事業の目的とし、次の4つの学習プログラム、アグリビジネス学習、イノベーション学習、高スキルアップ学習、組織的マネジメント学習を策定し、全学科・全校生徒を対象に研究を推進した。

## 2 具体的・特徴的な実践内容

それぞれの学習の取組については次のとおりである。

### アグリビジネス学習

「ふるさと秋田」を支える人材の育成に取り組み、地域農業を理解し、地域資源や人的資源を利活用する力を身に付けることを目的とした学習プログラムである。

女性農業経営者による講演や地域農産物を利用した

商品開発などを行った。特に特徴的な取組としては、校舎改築に伴い敷地内に建設されたアグリマーケティングハウスの活用である。今年度は地元若手農家と連携した農産物販売や、製パン業を営む本校卒業生とコラボした大農バーガーの開発販売などを行った。卒業生や若手農家との交流は自分の将来の姿を想像するよい機会となった。また、開発した商品を実際に販売することでマーケティングの難しさや販売することの喜びを体感するなど望ましい勤労観と職業観を身に付けることができた。今後、単なる販売だけではなく地域住民や園児との交流の場として活用していく予定である。



【アグリマーケティングハウス】

昨年度行われた韓国青年訪問団との国際交流では、調理や食品製造の体験学習だけでなく、なぎなたや折り紙などの伝統文化を本校生徒と一緒に体験する企画も実施した。生徒に実施したアンケート調査の結果では、「交流活動を通して、授業や実習に積極的に取り組むことができ、学ぶ意識が高まると感じますか」という質問に対して、「思う、どちらかと言えば思う」と回答した生徒が97.9%、「交流活動が自分の将来の職業に対する意識を高めると感じますか」という質問には、「思う、どちらかと言えば思う」と回答した生徒が86.6%であった。非常に有意義な交流活動であり、その後の学習活動にも良い影響を与えることができた。

### イノベーション学習

地域環境の保護活動や栽培に関する高度な知識及び最先端の技術に触れることにより、「ふるさと秋田」の多様な資源を生かす力を身に付けることを目的とした学習プログラムである。農業分野においてIoTの活用に関心を持っている方を講師に招き、スマートフォンを用いたスマート農業などの最新の取組状況についての講演をいただくことで、最新技術について認識を深めることができた。地元のプロバスケットボールチーム秋田ノーザンハピネッツ株式会社社長からは、県外出身者の視点から経営理念はもちろん秋田の良さや人と人とのつながりの大切さなどについて講演していただいた。アンケート結果でも「自分の将来の職業に対する意識を高めると感じますか」という質問に対して「思う、どちらかと言えば思う」と回答した生徒91.0%もあり、高校卒業後の将来像を思い浮かべることができる講演であった。

研究活動としては田沢湖の水質改善プロジェクトを行った。このプロジェクトは田沢湖の酸性水を中性化することにより、かつての生態系を取り戻し、再びクニマスが生息できる田沢湖にすることを目指した取組である。地元仙北市からも協力をいただき、昨年田沢湖畔にオープンした田沢湖クニマス未来館に本校の研究内容を展示したブースを設置していただくなど、波及効果が多方面に渡っている。また、閉鎖空間での農業の可能性についての知識を深めるため植物工場の見学なども行った。プロフェッショナルによる指導としては、大学教授からレタスの水耕栽培について講義していただき、今年度は本校でもレタスの水耕栽培に取り組むことができた。また、マーケティングについての講義も実施していただき、商品開発を進める上での参考になった。

農業とICT活用講演では「この講演を通じて授業や実習などに積極的に取り組むことができ、学ぶ意欲が高まると感じますか」という質問に対して、「思う、どちらかといえば思う」

と回答した生徒が約86%となり、学習意欲の向上に効果が見られた。

#### 高スキルアップ学習

地域農業に関わる農業者との交流を通して、地域社会の構成者としての自覚を高め、「ふるさと秋田」の地域課題に主体的・協働的に取り組む力を身に付けることを目的とした学習プログラムである。農業後継者を志すフロンティア農業研修生との交流では、農業に関わる講義と一緒に受講するなど相互に刺激し合うことで、地域農業についての知識を深めるとともに、農業後継者を目指す意欲を高めることができた。また、大仙市農業情報センター農業研修生との相互交流では、研修生と意見交換をしながら将来設計についてまとめ、マイライフプランとして発表した。プラン発表後、研修生からのアドバイスにより、具体的で実効性のあるプランに仕上げることができた。

参加した生徒は「農業に関わって生きていくという目標をもった先輩方や研修生の皆さんから指導を受け、改めて自分の進路について考えることができた」との感想を述べている。異なる年代の方達との意見交換をすることで、視野を広めることができた。

平成28年度の教員研修でフラワーアレンジメントについて研修した教員による指導により、平成29年度2名の生徒が秋田県で初めて「3級フラワー装飾技能士」に合格することができた。さらに、第27回全国産業教育フェア秋田大会におけるフラワーアレンジメント競技会において、本県初の金賞（文部科学大臣賞）を受賞するなど、大きな成果を上げることができた。平成29年度は果樹栽培の新たな可能性についての手がかりを得るため、果樹担当の教員が県外研修に参加しており、本校の果樹栽培への導入が可能かどうか検討を進めている。

また、作物専攻生が井関農機株式会社つくばみらい事業所を訪問し、「可変施肥技術セミナー」を受講した。他にも、校外活動や交流活動で活用できる態度と能力を身に付けるために、ファシリテーションの基礎について研修した。

#### 組織的マネジメント学習

農業経営者としての資質を高め、研修を通して農業技術の改良や農業経営上の諸課題についての理解を深め、課題の解決に向けて取り組むことができ、「ふるさと秋田」の農業の発展に貢献できる経営の多角化や高度化の方法を身に付けることを目的とした学習プログラムである。

農業経営を目指す人材の育成のため、先進農家や農業法人及び研究機関等での長期インターンシップを実施した。三重県では冬期間のハウレンソウ栽培の就業体験研修を、県内では加工用トマトの収穫や黒毛和牛の飼養管理などの就業体験を行った。参加した生徒は、「作業は大変だったが、農業の楽しさや魅力について再認識することができ、進路選択につながる体験活動になった」と感想を述べている。SPH事業終了後も長期インターンシップを継続し、農業経営者としての資質を高めるとともに、農業技術の改良や農業経営上の問題点についての理解を深め、地域農業の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

秋田県立農業科学館でのナビゲーター養成研修では、来館者に対して施設設備及び展示内容について説明するなどの活動を行い、農業についての知識を深めながら、コミュニケーション能力を養うとともに、積極性も身に付けることができた。来館者から感謝の言葉をいただくこともあり、地域に貢献しているという意識を高めることもできた。

学校設定科目「農と食」では地域農業及び自然・農村生活についての探究的学習活動を行いながら、伝統野菜「横沢曲がりネギ」の栽培や自家採取作業などに取り組んだ。また、地域の専門家による伝統料理「納豆汁」や「たけのこ汁」の調理講習会を実施した。これらの学習を通して、伝統野菜や伝統料理に関心をもつ生徒が増え、地域農業をより深く理解しようとする姿勢が見られるようになった。

### 3 成果と改善の方向性

実践的技術や技能は、個別の研修やイベント等に参加した生徒は身に付けることができた。

田沢湖プロジェクトに参加した生徒に対して実施したアンケートでは、「科学技術や理科・数学の理論・原理への興味の変化について」、向上したあるいは大変向上したと回答した生徒は80%であった。「問題を解決する力」でも60%の生徒が向上したと回答した。それ以外の「未知の事柄への興味・関心について」、「観測や観察、フィールドワークへの興味」、「自分から取り組む姿勢」、「粘り強く取り組む姿勢」等の質問に対しては、全員が「大変向上した」または「向上した」と回答している。

一方で、全校生徒を対象にした取組は講演会などが中心で、生徒が受け身になることが多かった。SPH事業終了後は、個別の研修に参加した生徒が主体となり、全校生徒を巻き込んだ事業を企画し、学校全体を盛り上げていきたい。

この3年間のSPH事業を通して、生徒や教員は社会が抱える諸課題と向き合いながら、新しい価値を生み出そうとする意識が格段に高まったと感じられる。農業を取り巻く情勢が年を追うごとに厳しさを増している中、このような高い意識をもつ人材に成長できたことを嬉しく感じている。

残す指定期間はわずかであるが、これからも高校生らしい発想で地域社会とともに農業や地域産業を盛り上げながら「大曲農業」という新たなブランディングを創りあげ、農業高校の魅力を全国に発信するとともに、この事業で培った「ふるさと秋田」を支えるための技術や技能、経営力を地域創生のために活用し、地域社会に貢献していきたい。



# DAINOプロジェクトによる農業と

# 地域産業の創造

## DAINOプロジェクト

**Diverse** 多様な

Agri-business Learning アグリビジネス学習

Innovation Learning イノベーション学習

**Noble** Skill-up Learning 高スキルアップ学習

Organic Management Learning 組織的なマネジメント学習

## アグリビジネス学習

(Agri-business Learning)

- ・女性農業経営者・女性農業士による出前授業  
(農業女子PJ)
- ・アグリ・ブランディング活動  
(商品開発とそのブランド力を高める活動)
- ・アグリマーケティングハウス活用実習
- ・グリーンツーリズムへの取り組み(農業+観光)

## イノベーション学習

(Innovation Learning)

- ・宇宙農業開発ISS実験モジュール「きぼう」での実験
- ・遺伝資源保護プロジェクト(クニマス遺伝子保護プロジェクト)
- ・環境保全プロジェクト(田沢湖中性化 水素発電)
- ・農業高校生が実践できるオープン・イノベーション  
(起業家精神の育成、高校生によるベンチャー企業化による地域連携)
- ・高度な技術実習(ICT活用による情報発信、環境制御、次世代施設園芸、ドローン活用、高性能林業機械体験学習)
- ・共同研究(学校と地域産業、大学、研究機関)

目指す人材：実践的技術・技能・経営力を身に付けた地域創生を担う人材の育成

## 高スキルアップ学習

(Noble Skill-up Learning)

- ・教員研修
- ・フロンティア農業者研修生との相互交流
- ・アグリフューチャー・ジャパン等を利用した農業経営セミナー
- ・「食の6次産業化プロデューサー」  
(愛称:「食Pro. 制度」)
- ・農業・農村に係るファシリテーションスキル研修

## 組織的マネジメント学習

(Organic Management Learning)

- ・長期インターンシップ(先進農家・農業法人・企業研修)
- ・学校設定科目「農と食」(地域農業、農業経営者、伝統野菜、郷土料理等を知り、人口減少社会を見据えた地域創生を考える)



連携



協力



秋田県立大学・秋田県農業試験場など  
 ・最先端の栽培管理技術指導  
 ・共同研究・調査の助言

秋田県農政部・農業経営者・農業法人・JA  
 A・農家民宿経営者  
 ・栽培に関する管理技術の指導  
 ・農業経営戦略に関する指導及び助言

関係企業  
 ・長期インターンシップや食のプロデューサー、ファシリテーションスキル研修に係る調査・研究指導及び助言

<発表テーマ>「課題解決実践力」を育むプロジェクト学習、地域連携活動の取組

群馬県立勢多農林高等学校  
植物科学科3年 会沢 飛翼  
動物科学科3年 天沼 千華  
今井しずく  
柴崎 芽依

### 1. 事業の概要

本校は、農業系6学科を設置する農業単独校です。SPH事業では、地方創生や農産物の輸出等に果敢に挑戦しようとする将来のスペシャリストを目指して、生涯にわたって自ら考え課題を解決していく力や主体的に行動できる力(課題解決実践力)を身に付けるため、「学習指導法等の研究」「地域連携の研究」「キャリア教育の研究」の3つの分野の取組を全校生徒で取り組んでいます。

各分野の取組の評価は、本校SPH事業で作成した評価基準に沿って、生徒達の自己評価とアンケート調査、先生方の客観的な視点を踏まえて行いました。

### 2. 具体的・特徴的な実践内容

#### (1) 学習指導法等の研究

農業の専門分野の学習では、全科目にプロジェクト学習が導入され、プロジェクトを展開しながら、必要な知識・技術を身に付けていく学習をしています。また、専門的な知識・技術を活用し、1年次は『課題発見力』、2年次は『課題解決力』、3年次は『プロデュース力』を段階的に身に付け、トータルとして『課題解決実践力』を身に付けることができるよう取り組んでいます。

#### ア「農業と環境」

1年次の「農業と環境」では、全学科で春野菜のトウモロコシと秋野菜のハクサイ・ブロッコリー等の栽培プロジェクトに取り組みました。栽培プロジェクトでは、野菜栽培の基礎的な知識や技術を習得するとともに、毎回、プロジェクトで生じた疑問点や気付きを書き留め、その解決法を考える学習を通して、『課題発見力』を育む活動を行いました。

#### イ「地域連携」

2年次は学校設定科目「地域連携」の学習が新規に始まりました。以下は、植物科学科野菜・草花コースの「野菜・草花と地域連携」の報告です。

#### 「野菜・草花と地域連携」

1学期は、地域農業のあるべき姿を捉えながら、地域農産物の種類と品種を調査し、生育過程の基礎及び地域農業における役割を学習しました。2学期以降は、地域農業の理解を踏まえ、地域農業の『課題発見』から『課題解決』を育む学習として、プロジェクト学習にGAP(農業生産工程管理)を位置付け取り組みました。その結果、野菜部門がASIA G.A.P(Ver.1)に認証されました。

#### ウ「地域連携」

3年次は学校設定科目「地域連携」の学習が新規に始まりました。以下は、動物科学科資源動物コースの「資源動物と地域連携」の報告です。

#### 「資源動物と地域連携」

酪農経営では、ウシの発情を的確に見分け繁殖させることが重要であるため、班毎に最適な発情確認方法を考え、課題解決に向けての取組を実践し、結果から考察、次の課題設定という



図1「農業と環境」での調査

1「地域連携」及び「地域連携」は、各学科に設置する学校設定科目で「各コース名と地域連携」「各コース名と地域連携」としています。



図2 GAP学習での整理・整頓



図3 発情発見プロジェクト

一連のプロジェクト学習を行いました。

また、家畜改良事業団の方や6次産業化に取り組む酪農家の方との交流を通して、様々な角度から畜産業の現状を理解し諸課題を解決する方法を考えました。再度、その解決方法を交流した専門家へ提案する活動を通して『プロデュース力』を育む学習活動を行いました。

(2) 地域連携の研究

地域資源を活用したプロジェクト活動

学科の枠を超えての相互乗り入れのプロジェクト活動として「桑の葉パウダーを利用した地域連携プロジェクト」に取り組みました。

動物科学科の実験動物部では、「桑茶の血糖値上昇抑制効果」に関する研究を行いました。研究結果は、第65回群馬県理科研究発表会において発表したところ、最優秀賞を受賞し、本年度の全国総合文化祭（信州総文祭）へ出展することができました。

また、食品文化科では「桑の葉を活用した商品開発」を進め、洋菓子屋との共同開発でパウンドケーキを開発することができました。このようなプロジェクト活動を通して、『課題解決実践力』が身に付いたと感じています。

表1 桑の葉パウダーを利用した各学科の連携内容

各学科の	連携内容	連携内容
植物科学科	桑の栽培試験	
バイオテクノロジー科	桑の挿し木・接ぎ木等の苗生産技術の確立	
動物科学科	桑由来酵母の単離と商品開発	
緑地土木科	桑の生葉・粉の給餌に関する研究	
食品文化科	庭木用桑（枝垂れ桑等）の調査とその苗生産	
グリーンライフ科	桑の葉を活用した商品開発	
	養蚕文化（農具、郷土料理、資料）に関する調査と整理	
	桑枝を活用した和紙の生産	
	蚕の飼育と繭玉の活用	



図4 開発したパウンドケーキ

(3) キャリア教育の研究

系統的なインターンシップ

1年次では全員3日間の短期インターンシップ、2年次では全員6日間の長期インターンシップ、3年次では希望者が週1回のインターンシップを概ね半年間に渡って行うデュアルシステムを行いました。今年度は10名の生徒がデュアルシステムに参加し、学習意欲の喚起や専門学習を深める活動となっており、自己の目標設定にも繋がっています。



図5 各学科が取り組む長期インターンシップ

3. 成果と改善の方向性

1年次の「農業と環境」、2年次の「地域連携」、3年次の「地域連携」を中心に各専門科目でのプロジェクト学習を通して、体系的・系統的な知識や技術を習得するとともに、専門分野での『課題を発見する力』や『課題を解決する力』、『プロデュースする（発信する）力』が順次身に付いてきたように感じます。そして何より、今まで以上に、専門分野への興味・関心が高まり、主体的に学習に取り組めるようになるとともに、動植物のより良い生産方法や的確な経営感覚が身に付いてきました。これは、SPH事業で目標の一つに取り組んできた効果であると考えています。

また、インターンシップの取組や学期毎の振り返りを行うポートフォリオ（本校ではSPHファイルと呼称）の活用により、将来に向けての目標が明確になってきました。その結果、昨年度の先輩方の農業関連への進学・就職の割合が66%を越えました。私たちも、早めに将来像が描けたおかげで、積極的に高校生活を送ることができています。

今後もプロジェクト学習を中心とした課題解決的な学習を通して実践的な力を身に付けていきたいと考えています。また、インターンシップやSPHファイルの活用により専門分野への具体的な将来像も描けるため、継続的な取組が大切であると考えています。

「勢農ブランド確立への挑戦！未来の農業を拓く専門人材育成プログラムの開発  
～ 地方創生や成長産業としての農業を担うための資質・能力の育成 ～」

育てたい人材

- ◎地域農業・社会のリーダーやその一員として、農業や地域産業の発展に貢献できる人材
- ◎農業のグローバル化に対応し、成長産業としての農業を担う人材

育てたい資質・能力 「課題解決実践力」

教科内学習

課題発見力の育成

1年次

農業への興味・関心を高め、個別の専門的知識・技能の定着を図るとともに、基礎的なプロジェクト学習を通して、課題発見力と課題解決の方法を身に付ける。

- ・個別の知識・技能を習得する。
- ・群馬の農業の魅力を理解する。
- ・群馬の農業の課題を発見する。

「農業と環境」  
各専科基礎科目  
普通教科の各科目

学校設定科目「農業と人間」

学習指導法の研究

プロジェクト学習の基礎

キャリア教育の研究

短期インターンシップ

農業クラブ活動

教科外学習

プロジェクト活動

学科間連携

勢多農林直売所の運営

地域交流事業

プロデュース力の育成

2年次

実践的なプロジェクト学習を通して、グループや班単位で協働しながら、課題解決を図るための思考力や実践するための判断力、またその過程や成果を表現する力を育成する。

- ・個別の知識・技能を深める。
- ・課題解決の方法を実践・表現する。
- ・勢農ブランドを提案する。

各専科基礎科目  
「野菜」「植物バイオテクノロジー」「畜産」「測量」「食品製造」「グリーンライフ」等  
普通教科の各科目

※「地域連携Ⅰ」

学校設定科目「農業経営実践」（植物学科・動物学科のみ）

プロジェクト学習の実践

長期インターンシップ

デュアルシステム

3年次

応用的なプロジェクト学習を通して、自ら進んで課題に向かい合い、協働しながら農業や地域を創造・プロデュースしていく課題解決実践力や、前向きに取り組む態度を育成する。

- ・知識・技能を生かす。
- ・学びに前向きに向かう態度を育成する。
- ・勢農ブランドを発信する。

各専科基礎科目  
「野菜」「植物バイオテクノロジー」「畜産」「農業土木設計」「食品流通」「グリーンライフ」等  
普通教科の各科目

※「地域連携Ⅱ」・「農業マーケティング」

学校設定科目「農業経営実践」（植物学科・動物学科のみ）

プロジェクト学習の応用

デュアルシステム

連携

連携先等

- ・東洋大学
- ・中央農業グリーン専門学校
- ・群馬県教育委員会「次代を担う職業人材育成事業」「専門学科講師派遣事業」「高大連携事業」
- ・群馬県農政部「農業チャレンジセミナー」
- ・関係市町村・農家・関連企業・J A 他関係団体
- ・東京農業大学
- ・農林大学校
- ・フイピン大学附属ルーラル高校

地域連携の研究

評価法の研究

- ・アグリマイスター 等
- ・農業技術検定
- ・各種資格取得
- ・アンケートの実施

評価

検証

※各学科に設置する学校設定科目。「植物バイオテクノロジーと地域連携Ⅰ」のように「各コース名と地域連携Ⅰ」「各コース名と地域連携Ⅱ」とする。

# 地域を担う生命総合産業 (Total Life Industry) クリエーターの育成

熊本県立南稜高等学校 (発表者) 食品科学科 3年 吉村菜々香・税所大翔

## 1 事業の概要

本研究では、地域内の産業活性化に向け、農を軸とした新総合産業分野の創造とそれを可能にするクリエイターを育成する。

- (1) 将来の農業経営を目指し地域リーダーを育成する「南稜就農塾」の教育プログラムを人材育成のモデルとし、将来的に地域内の各産業分野で持続的な発展と活性化に寄与する人材育成を全学科で行う。
- (2) 産学官連携を強化することで、地域のニーズを教育活動に取り入れ、地域を担う役割を自覚し、意欲的に課題解決と新産業分野の創造ができる人材育成につなげる。
- (3) プロジェクト学習法により、農業の発展、農村振興等につながる創造的・発展的活動を地域と一体となつて行う。本校が准研究機関としての役割を發揮し、地域課題解決や商品開発、検証的調査、先進的技術・設備の導入等を行い、その成果を地域に普及する。
- (4) 研究の評価及び測定には、本校独自の「南稜版学習到達度評価方法 (LAEM for Nanryou)」で検証的評価を行う。

**LAEM for Nanryou**

※ LEARNING ACHIEVEMENT EVALUATION METHOD FOR NANRYOU HIGH SCHOOL/熊本県立南稜高等学校  
本校SPH独自の評価方法「南稜版学習到達度評価方法」

<b>最終到達目標</b> 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力のバランスを重視する!		
知識レベル	技能レベル	意欲レベル
【定性評価】 ポートフォリオ・意識調査(ルーブリック評価)・内部及び外部評価・進路希望		
【定量評価】 ペーパーテスト・SPH到達度テスト・鑑定試験・技能試験・資格取得・進路実現度		

授業の基本方針 『南稜スタンダード』アクティブラーニング・ユニバーサルデザインの視点

## 2 15の研究項目・活動内容 (研究テーマ・目標・主な実施内容)

<div style="border: 2px solid green; padding: 5px;"> <h3 style="color: green; margin: 0;">農 農業生産分野</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成【南稜就農塾】 地域農業を担う新規就農者、地域農業の活性化に寄与する人材 『地域課題の理解と検証・農業インターンシップ・グイス100粒プロジェクト・アグリインフォサイエンス』</li> <li>② 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出【南稜就農塾】 上級学校進学者(将来のリーダー候補)、課題解決力のある人材 『農水模試Cゾーン以上・ブランドデザイン創造・オープンキャンパス・進学プロジェクト』</li> <li>③ 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～【生産科学科】 幅広い知識と技術と実践力を身に付けた人材 『栽培・飼育の知識技術習得・PDCAサイクル習得・県乳牛共進会・人工授精訓練』</li> <li>④ 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得【園芸科学科】 持続可能な農業の実践と食料生産管理システムを構築する人材 『地域農業と環境及び生産の理解・県版GAP認証』</li> <li>⑤ 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践【園芸科学科】 地域農業の活性化に向けた貢献意欲と課題解決力を持った人材 『地域農業と環境及び生産の理解・規格外品による商品開発』</li> <li>⑥ 地域林業の実践的リーダー及び経営管理能力者の育成【環境工学科】 知識や技能・課題解決能力を持ち、リーダーとして活躍できる人材 『フォレストワーカーの理解・地域と林業の理解・最先端測量技術講習』</li> </ol> </div>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <h3 style="color: red; margin: 0;">食 農商工連携分野</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の特色と資源を活かしたモノづくり【生産科学科】 地域資源を活かしたモノづくりの実践者 情報発信力・普及力を持った人材 『地域課題の理解と検証・農業インターンシップ・学校農産物情報発信活動』</li> <li>② 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築【園芸科学科】 6次産業化の実践者 モデルケースの構築と普及 『6次産業化の理解・農産物の活用方法・グリーンハウスプロジェクト・規格外品の商品開発』</li> <li>③ 地域の食品開発センターとしての確立 ～共同研究による商品開発及び分析の視点～【食品科学科】 地域の食品開発センターとしての協力・支援 開発関連産業の即戦力となる人材 『基礎知識と技術習得・食品衛生の理解・分析機器の活用力・食生活アドバイザー』</li> <li>④ 食の6次産業化を担う人材の育成【食品科学科】 コーディネーター・マネージャーとして貢献する人材 地域のリーダーとなる人材 『6次産業化理解・地域資源活用アイデア検討・加工の基礎習得・マーケティング研修』</li> </ol> </div> <div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <h3 style="color: orange; margin: 0;">和 農業とコミュニティ分野</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成【環境工学科】 知識や技能・資格等の習得 保全や開発に尽力できる実践者と指導者 『地域課題の理解・農業土木及び建設の魅力と役割を理解・水源の森づくり』</li> <li>② 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成【生活経営科】 将来の衣食住を提案とマネージメント 健康で豊かな社会を築く実践者と指導者 『知識と技術の習得・関連技能検定・地域と生活の関連性を理解・文化祭食バザー』</li> <li>③ 農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成【生活経営科】 地域文化等の継承者と伝承者 発展的な地域社会の構築と創造に寄与できる人材 『地域社会と文化の理解・保育と福祉の現状理解と関連知識習得・郷土料理講習』</li> </ol> </div> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <h3 style="color: blue; margin: 0;">健 農のレクリエーションインストラクター</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成【普通科体育コース】 自然体験活動や生涯スポーツの実践者と指導者 体験活動のコーディネーター 自然体験活動等の事業化や健康増進活動に寄与する人材 『自然環境や資源を活かした体験活動の理解・グリーンツーリズムの理解・フットパス研修』</li> <li>② 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入及び普及【普通科福祉コース】 園芸福祉の理解と普及の実践力を習得 園芸福祉の技能者及び指導者 『園芸の基礎知識と技術の習得・園芸療法の観点による栽培実践・フarrowボックス講習』</li> </ol> </div>
--	---

## 3 成果と改善の方向性

### (1) 成果

#### ① <農> 農業生産分野

- ・ 産学官連携により、調査・研究等の学習活動(実践・観察・改善・分析・考察・文書処理)をとおして、農産物の栽培、飼育技術の基礎から応用的な実践力まで身につけた。
- ・ 地域を活性化するためには知識や技術だけでなく、実行力や周囲を巻き込むリーダー性が必要だと分かった。
- ・ 農業や農特産物の魅力を実感し、将来は農家や農業関係従事者になることを決めた。その上で、もっと学びたいという意欲が高まった。
- ・ 子牛のせりでトップセールスを記録したこと、GAP認証を受けたこと等、外部の関係者や有識者に評価され、認められることで自信と向上心が身につけた。

②<食>農商工連携分野

- ・地域農業が生み出す農特産物の魅力や活用の可能性を学び、6次産業化等、「生かす・作る・売れる」モノ作りの面白さを知った。また、アイデアをカタチにして、新たなモノを作る難しさも学んだ。
- ・「売れる」ものを作るためには、【マーケティング+企画力+商品力+販売イメージ】が備わっていないと分かった。
- ・商品力を上げるには、地域の方や専門家の外部評価を受けて、ブラッシュアップしていくことで可能になることを知った。
- ・研修や講演会で知識や技能を高め、実践では仲間と協力し、試行錯誤し、多くの大人とも相談、連携するなど協働で成功するという、新たなモノづくりを可能にするために必要な過程を体験的に学ぶことができた。

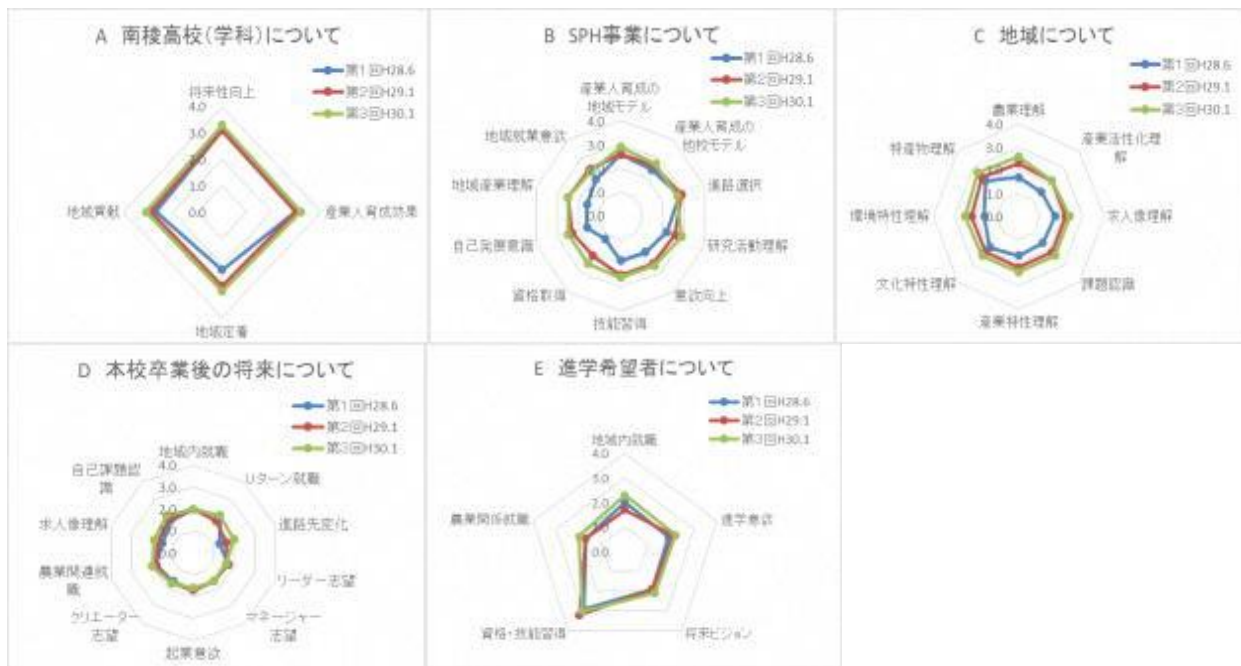
③<和>農業とコミュニティー分野

- ・はっきりとした目的意識を持って取り組むことで、知識学習や実習にも意欲的に取り組むようになった。
- ・地域企業訪問や地域文化研修などを重ね、地域の生活産業や農村生活について理解を深めることができた。また、継承への意欲も高まった。
- ・将来、地域に貢献できるヒューマンサービスに関わる専門職の実践者・指導者になり、学んだことを活かしたいと考えようになった。
- ・地域のイベントや祭り等、ボランティアへの自主的な参加が増えた。

④<健>農のレクリエーションインストラクター

- ・球磨地域学や講演会、体験活動をとおして、地域農業や環境資源の魅力や学んだことで、グリーンツーリズムや園芸福祉など新しい観点から多くの活かし方があることを学んだ。
- ・自ら自然体験活動や園芸福祉を体験することで、その効果や魅力を知ることができた。また、活動を「企画すること・指導すること・PRすること」の大切さと難しさを学んだ。
- ・将来の職業分野で、学んだことや覚えたことを積極的に活かそうとする意欲が高まった。

⑤定性評価の推移【平成29年度2年生対象】



(2) 改善の方向性

- ア 3年間の活動の系統性を明確にした活動を行う。
- イ どの生徒も(誰でも)自ら実践した研究活動を理解した上で、他者に対して研究の成果や課題について説明ができる態度を育む。
- ウ 「南校スタンダード」を今年度改訂し、学習活動の記録(メモ)をとり、その後の反復学習や発展学習に生かしていく習慣を身に付けさせる。
- エ 平成28年度から取り組んでいる他のSPH研究指定校との交流活動を更に充実したものとなるよう改善を図る。その一方で、県内の高等学校等に対し、本校の「熊本県版GAP認証」に係る活動をはじめとする研究内容及び成果の普及活動を積極的に推進するとともに交流学習を進める。
- オ 郷土である球磨人吉について真に自分のものとして発見する力、将来的なビジョンを描く力を身に付けさせる。
- カ 各研究項目の代表生徒から成る生徒研究委員会を今年度組織して会議等を実施したが、本格的な活動までには至っていないことから、生徒たち自らの「学びのうねり」を促す。
- キ 研究の成果を適切に測る効果測定方法として、定性及び定量評価方法の再検討が必要である。特に、定性評価において、「ポートフォリオ」の評価方法や評価基準の在り方について研究する必要がある。定量評価では、生徒の実情に合わせた学年ごとの目標設定が必要とされる。



日本遺産 球磨・人吉

いよいよはじまる！ スペシャリストたちの豊かな地域創造が...  
ここ南陵高校から

地域を担う生命総合産業(Total Life Industry)クリエイターの育成

農業 × 教育 × 異業種 × 地域資源

新総合産業の創造

技術を伝える・地域を導く

リーダー

インストラクター

指導者

伝承者

育成すべき人材

人と地域をつなぐ

コーディネーター

マネージャー

地域を支える

後継者

クリエイター

ワーカー

プロフェッショナル

そして！これからは  
プロフェッショナルを地域へ

農食和健

クリエイター育成

各学科

南陵就農塾

SPH

これまでは...  
ワーカーを都市部へ

独自評価法「LAEM for 南陵」で変容を評価

育成すべき資質・能力



知的財産の創出



食の6次産業化ができる力



農業を科学できる力



農業・農村機能を活用できる



食材・資源を利活用できる



新たな農業経営GAP認証



園芸福祉の技能を取得



高度な資格を取得



伝統・文化を継承する



郷土愛の醸成

クリエイター育成の風力

時代

地域

大学

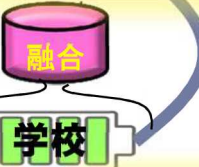
企業

行政



4つの教育活動分野

- 農 農業生産分野
- 食 農・商・工連携分野
- 和 農業とコミュニティー分野
- 健 レクリエーションインストラクター



目指すプロフェッショナル像

農

- ①地域の知識・技術を継承できる
- ②農畜産物の付加価値を戦略的な視点で考えられる

食

新たな価値を創造できる力を取得

和

豊かな生活空間を創造する意欲

健

- ①福祉関係アクティブプログラム開発
- ②生涯スポーツを探究する
- ③リーダー性・献身的な態度を持つ

この研究成果を  
地域創生のモデルとして  
南陵高校

熊本県農業関係高校

全国の農業関係高校